

郷土紹介



古民家 長崎家住宅

現在は 区立岡本公園内に建っている為、瀬田との縁が少し薄くなった感がありますが、この茅葺屋根の古民家は、元、瀬田の長崎孫好氏所有住宅です。

この建物は、長崎氏より昭和五十二年に世田谷区に寄贈され、区の有形文化財第一号として当地に移築されたものです。

昭和五十四年七月から復元工事が始まりましたが、三ヶ月後の十月十九日、東京地方を台風二十号が直撃、強い南風に煽られて、荒木田壁まで出来ていた建物は無残にも倒壊してしまいました。その様子は翌日の各

紙新聞が大きく報道いたしました。この様なアクシデントにも見舞われましたが関係者の努力により、工事は再開され、翌五十五年十二月、岡本公園民家園として一般公開の運びとなりました。

当家は江戸時代、百姓代として村役人を勤めた家系ですが、その終本家の長崎家は、小田原北条氏の家臣で、今から四百有余年前の永祿時代、瀬田に來住し、江戸開府後は彦根藩世田谷領の有力な名主として瀬田村の開発に尽くしました。

又、行善寺は、この長崎氏の祖が小田原にあつた道栄寺を当地に移し、初代の法号を寺号にしたとの事ですが、



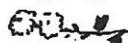
(飯田)

懐かしき想い

菅原三子 伊藤英子

「節の西北早稲田の杜に」と謳歌され続けた東京山の手で私は育ちました。リーフ戦中は漫刺とした若人の活気溢れる街でした。又、神奈坂の若者は美しく憧れでした。縁日には夜更を歩くのが、とても楽しかったです。

わが故郷



ある日突然、雪の降り積った朝、二、二六車件が起こり、驚き、震えたものでした。やがて第二次世界大戦となりました。防空壕への出入りを繰り返し、遂に私の故郷牛込は焼きつくされました。只、茫然と立ち竦みました。



スポット

空き巣にご用心

最近、用賀出張所地区でも一級家庭や専業所に侵入する泥棒、中でも、ピッキングによる空き巣ねらいが急増しています。錠の強化を考えてみた、いものです。コンサートのお知らせ

中高生バンドや小学生のダンス、ピアノ演奏など、子どもたちの音楽活動発表の場として、『パークサイドクリスマスコンサート』を開催します。12月22日(金)の正午から、上用賀アートホールにて。

同窓会のお知らせ

京西小学校の同窓会が、12月9日(土)の午後2時から同校の体育館で開かれます。



その後何年も、住むべき土地を探し求めて、やっと用賀に落ち着く事が出来ました。あれから半世紀になります。

この地域は、先代の方々の努力で区画整理が整っており、とても有難い平でした。その後、重宝が舞い上っていた畑にもポツリポツリ家が建ち始めました。水道の必要にせまられ自己負担で水道管を上用賀に初めて引き込み、続いてガス本管を引きました。やっと文化人になりました。



本号は「わがまち新しい世紀に向けて」というテーマに致しました。

東京の西の玄関「二子玉川」も変身、楽しみです。先人の方々の20世紀への贈り物の茶通り。明かるく安心して歩ける潤いのある町、用賀商店街。21世紀へ向けての都市農業のあり方、有機肥料での栽培も苦労も多いと思います。味わってみたいですね。街の緑の減少には心が痛みます。

立冬も過ぎ21世紀は目前、変化の激しい20世紀でした。私達は「ひろば」をより良いミニコミ紙に致したいと願っています。(大坪)

地域とともに

戸板中学校 校長 戸部英貞

用賀駅東口を出て、中町通り方面に向かい、用賀神社脇の坂を上がったところに我が戸板中学校・戸板女子高等学校があります。

この地に移動してきてからもう八年程とうとしていますが、地域の皆様には防災訓練や敬老会の折りに施設を提供しているだけで、日頃お世話になってることをお返しするに至っておりません。そういう点では本校は新参者であるわけですが、本校も平成十四年には創立百周年を迎えます。明治三十五年に裁縫学校としてスタートし、現在では用賀に中等・高校、港区三田と八王子には短大を有する学園にまで発展しました。

どうぞよろしく

教育改革云々という言葉が連日、新聞紙面やテレビを賑わしていますが、本校も百年近い歴史にあぐらをかくことなく、私立学校としての教育改革に取り組んでいます。その一つとして、本校で催す講演会や講習会に皆様をお招きし、百年にわたり積み上げてきた教育財産を少しでも地域に還元することを、計画しております。

地域に密着した私立学校であることを目指しておりますので、今後ともよろしくお付き合いください。

